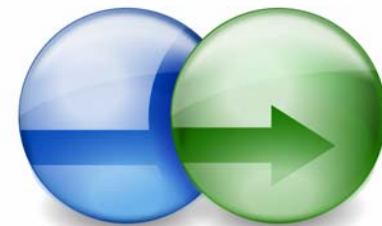




Relay<sup>101</sup>

**日東紡**  
**2009年度 第2四半期決算説明会**



Relay<sup>101</sup>

2009年 11月 11日

# 目次

## I .09年度第2四半期決算の概要

## II .09年度通期業績予想と今後の取組み

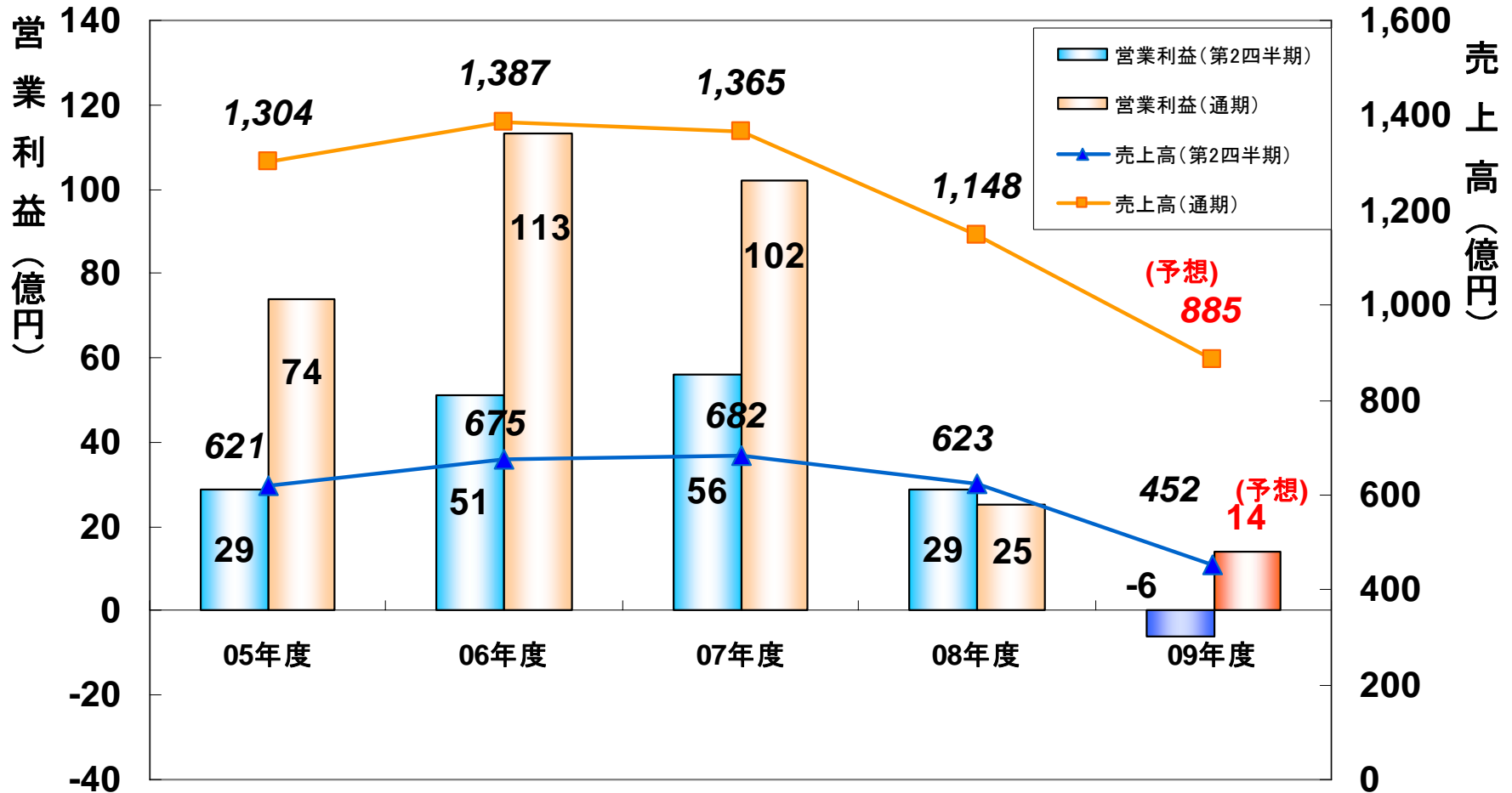
# I. 09年度第2四半期決算の概要

# 1. 業績概要

(億円)

	08年度 第2四半期	09年度 第2四半期	増減	増減率 (%)
売上高	623	452	▲170	▲27.4
営業利益	29	▲6	▲35	—
営業利益率 (%)	4.7	▲1.3	▲6	—
経常利益	29	▲11	▲40	—
当期純利益	10	▲11	▲21	—

## 2. 売上高・営業利益の推移



### 3. 財務及びキャッシュフロー

(億円)

	08年度	09年度第2四半期	増減	(参考)08年度 第2四半期
総資産	1,474	1,375	▲ 98	1,501
純資産	564	560	▲ 4	747
自己資本比率(%)	37.2	39.6	2.4	48.6
1株当たり純資産(円)	256.58	255.04	▲ 1.54	295.37

	08年度第2四半期	09年度第2四半期	増減	(参考)08年度通期
営業キャッシュ・フロー	▲ 16	▲ 37	▲ 20	19
投資キャッシュ・フロー	▲ 31	▲ 24	7	▲ 93
フリーキャッシュ・フロー	▲ 48	▲ 61	▲ 13	▲ 74
財務キャッシュ・フロー	▲ 11	▲ 3	7	82

## 4. セグメント別業績推移(四半期別)

(億円)

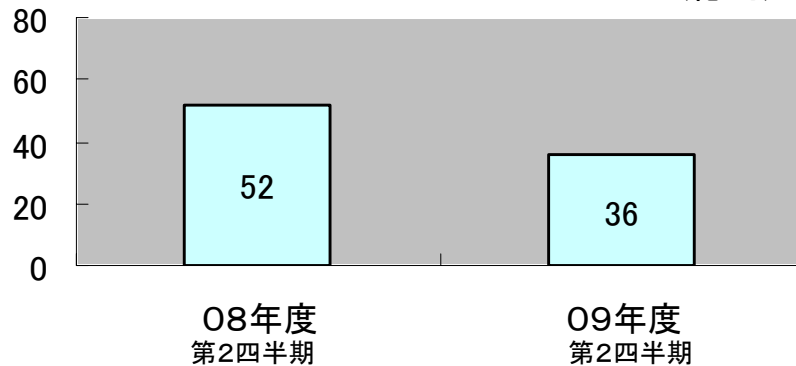
セグメント		2008年度				2009年度	
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
繊維	売上高	27	25	26	19	17	18
	営業利益	1	1	1	▲0	0	0
建材	売上高	109	121	123	108	69	79
	営業利益	▲2	▲0	0	▲1	▲3	0
G/F	売上高	131	134	109	75	89	108
	営業利益	10	12	3	▲9	▲7	▲2
その他	売上高	36	37	31	29	36	32
	営業利益	5	4	2	2	5	5
消去	売上高	—	—	—	—	—	—
	営業利益	▲1	▲1	▲2	▲1	▲2	▲2
計	売上高	304	318	290	234	213	239
	営業利益	13	15	6	▲9	▲8	2

## (1) 繊維事業

- 衣料品の販売不振や低価格志向の加速により、厳しい状況が続くなか、差別化商品の開発、徹底したコストダウンなどを推進。

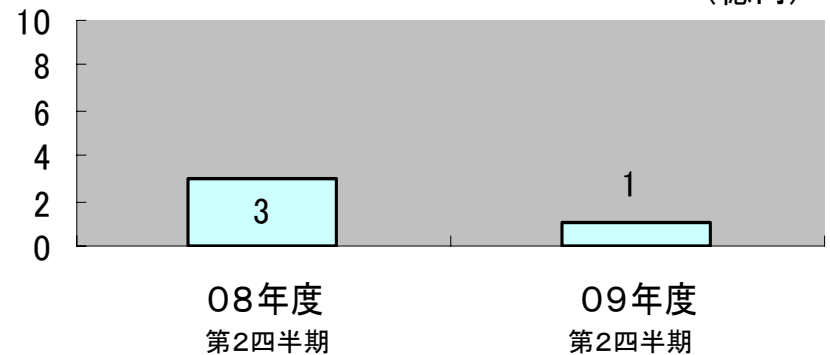
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



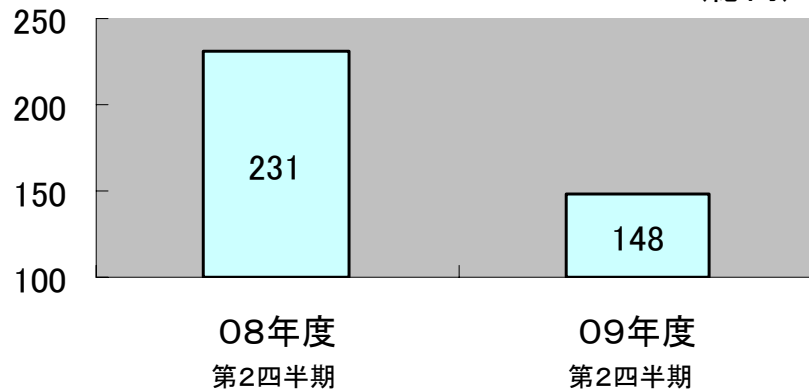


## (2) 建材事業

- 住宅着工戸数が引き続き低調に推移したほか、非住宅用途も企業業績低迷の影響を受ける。

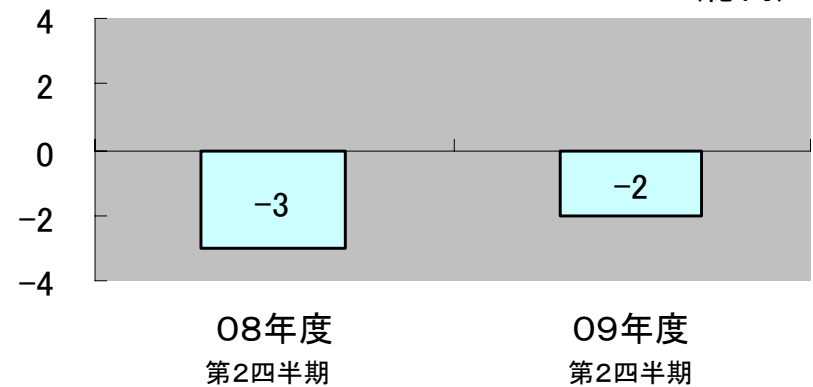
売上高

(億円)



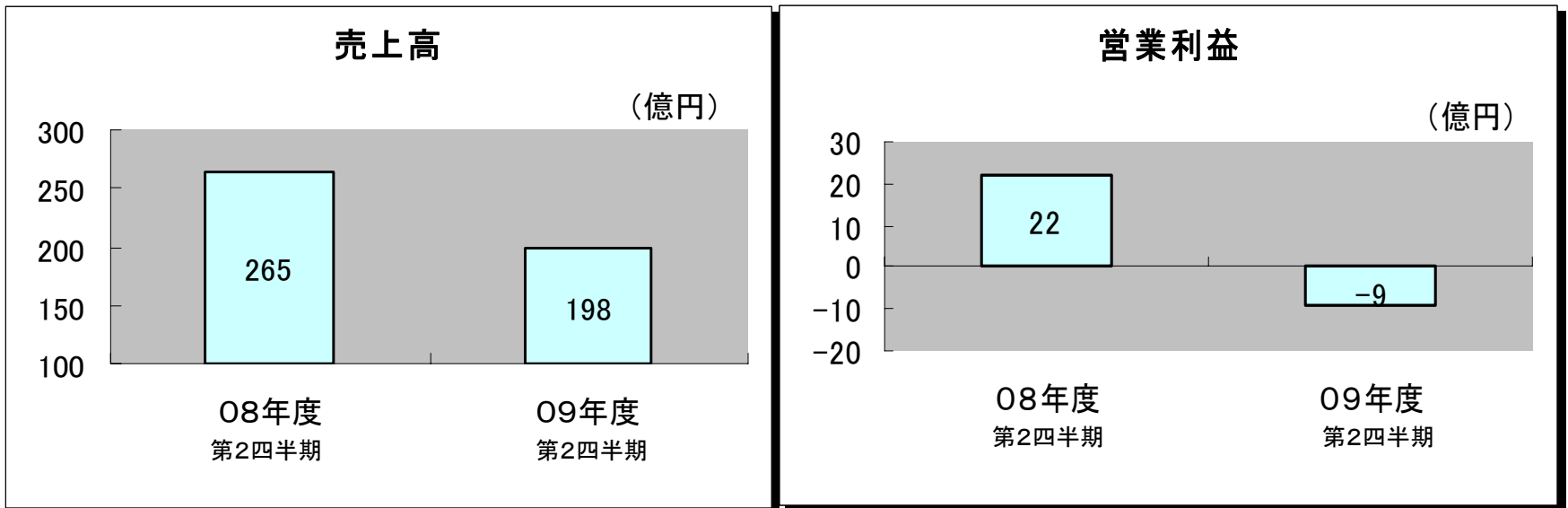
営業利益

(億円)



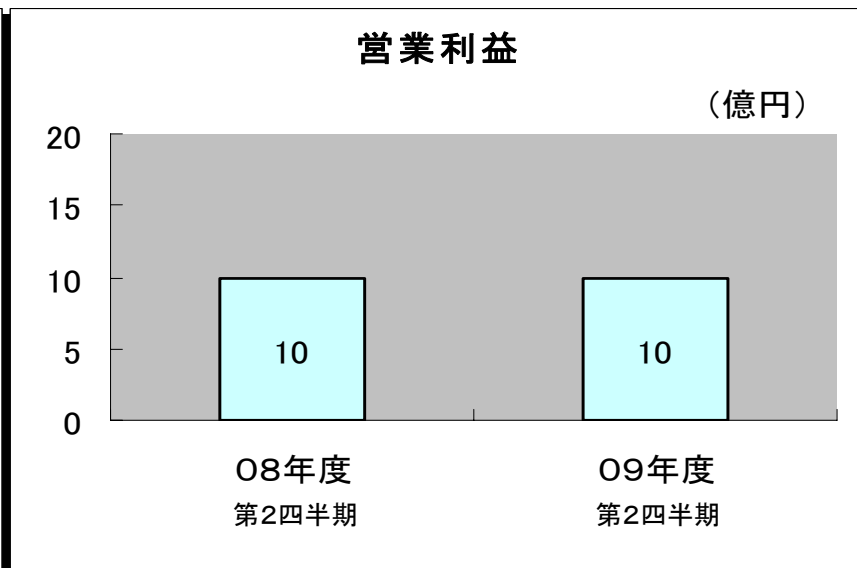
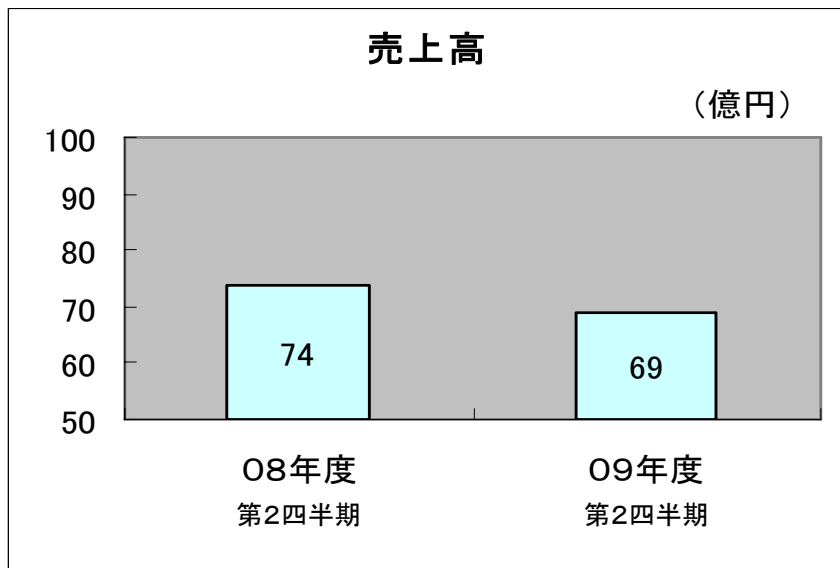
### (3) グラスファイバー事業

- 電子材料用途を中心に在庫調整の進捗などにより回復基調をたどったが、建築・住宅機器市場の低迷が続き全体として厳しい状況が続いた。



## (4) その他の事業

- メディカル事業や飲料事業を中心に競争の激化や市場の縮小などの影響を受けたが、新商品の開発や高付加価値品の拡販、営業力の強化などを推進。



## Ⅱ. 09年度通期業績予想と今後の取組み

# 1. 09年度業績予想

為替: 90円/US\$

原油価格(ドバイ): \$80/バレル

(億円)

	07年度通期 実績	08年度通期 実績	09年度 第2四半期 予想	09年度 第2四半期 実績	09年度通期 予想
売上高	1,365	1,148	482	452	885
営業利益	102	25	▲ 15	▲ 6	14
営業利益率(%)	7.5	2.2	▲3.1	▲1.3	1.6
経常利益	102	24	▲20	▲11	6
当期純利益	59	▲ 91	▲ 27	▲ 11	4



## 2. セグメント別動向と今後の取組み

### 【全体】

景気の先行きは不安定な要素も多く、引き続き予断を許さない状況。顧客との関係強化や技術革新の加速、コストダウンや経費削減を徹底して行い事業基盤を強化。  
※当社は、セグメント別の業績見込み数値は開示しておりません。

### 【セグメント別】

繊維事業	個人消費の低迷により引き続き厳しい状況であるが、新商品の上市や生產品種構成の見直し等を進め、利益拡大を図る。
建材事業	厳しい環境下、構造改善効果、グラスウールのシェアアップ等により、収益改善を目指す。
グラスファイバー事業	先行き不透明な状況下、技術革新の継続と顧客との関係強化により、引き続き回復を図る。
その他事業	メディカル事業の新規分野への展開や、飲料事業の開発提案力向上により、安定収益を確保する。

## 本資料の取り扱いに対する注意事項

本資料に記載されている予想数値は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、将来の業績数値や施策の実現を確約・保証するものではありません。